

## 義歯補綴科における専門外来の取り組み

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 先進治療科学専攻 顎顔面機能再建学講座  
 口腔顎顔面補綴学分野  
 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 成人系歯科センター 義歯補綴科\*

村上 格，西 恭宏，鎌下 祐次\*，川本 真一郎\*，  
 木下 智恵，水流 和徳\*，丸山 浩美，長岡 英一

当科では6つの専門外来において，各担当者が関係診療科とのチームアプローチのもとに補綴処置を担当している。治療成績だけでなく，基礎的・臨床的研究成果について関連学会において発表しており，博士論文にもなっている。今回は，その概要を紹介する。

### 口唇口蓋裂（構音リハビリ）：木下智恵

哺乳障害，構音障害，不正咬合などに対する関係診療科の連携による一貫治療において補綴処置を担当し，平成18年から20年までにスピーチエイド10例，部分床義歯2例，メタルリテーナー3例，ダイレクトボンティックブリッジ1例を担当した。また，顎顔面外科を中心とするもみじ会（口唇裂・口蓋裂患者の保護者会）の活動にも参加し，患者や家族とのコミュニケーションを図っている。

### 摂食・嚥下リハビリテーション（摂食・嚥下リハビリ<sup>1)</sup>，顎顔面補綴<sup>2)</sup>）：西 恭宏<sup>1), 2)</sup>，村上 格<sup>2)</sup>，小野原昌弘<sup>2)</sup>，今井崎太一<sup>1)</sup>

口腔腫瘍手術後や脳血管障害等の摂食・嚥下障害に対して，口腔外科，顎顔面外科，耳鼻咽喉科と連携し，顎義歯，嚥下補助床，パラタルリフト，舌接触補助床などの補綴装置の装着と筋機能訓練など間接訓練を行っている。平成18年から20年までに，頭頸部腫瘍等の器質的障害は上顎欠損23例，下顎・舌欠損37例，脳血管障害等の機能的障害は4例を担当した。平成20年6月から歯科の入院患者に対し，口腔外科，顎顔面外科，看護部との連携による嚥下回診を実施し，頭頸部腫瘍患者18症例に対し経口摂取時期，食物形態，補綴装置の装着や改造時期について検討し，摂食・嚥下機能の改善を図っている。

### 顎関節症：丸山浩美，川本真一郎，小野原昌弘

顎関節症の主要症候を示し，咬合が主たる原因と考えられる場合，顎関節断層撮影やMRI等の画像検査に加えて，下顎運動計測装置（MKG）と筋電計による顎運動および咀嚼筋活動の検査を行い，必要があればスプリント療法，咬合調整あるいは咬合再構成等の咬合治療を行っている。平成18年から20年までに67例を担当した。その内訳は，咬合再構成を図った補綴処置例（旧義歯改造やスプリント療法により適正な下顎位を求めて新義歯あるいはクラウン・ブリッジ装着）が3割，下顎位の変更を伴わない補綴処置例（義歯調整，義歯新製，咬合調整）が3割，その他に外科系診療科での投薬や理学療法奏功の経過観察例やスタビライゼーションスプリントとマニピュレーションのみでの終了例が4割であった。

### 歯科インプラント：鎌下祐次，川本真一郎

関係診療科によるカンファランスにもとづくチームアプローチにより実施しており，インプラント体の埋入は外科系診療科や歯周病治療科で行い，上部構造は補綴科が担当している。義歯補綴科では，平成18年から20年までに24例の患者を担当した。なお，平成13年の専門外来開始時から平成16年までの診療実績については，歯学部紀要25巻25-37（2005）にて報告した。

### 審美歯科：鎌下祐次

当科で開発した顔貌分析システムを用いて義歯患者の顔貌の自然さを診断し，客観的データにもとづき不自然な顔貌を自然な顔貌に回復する処置を行っている。平成18年から20年までに11例の患者（主訴で審美的要求が高かった者）を担当した。材料的には，酸化アルミナ，ジルコニア，ガラス繊維補強型高分子材料

(FRC) を適用し，部分床義歯のクラスプには金属の代わりに歯冠色の FRC (図) を適用している。非金属材料の使用は金属アレルギー患者に有効である。

金属アレルギー：水流和徳，木下智恵

金属アレルギーが疑われる場合，パッチテスト（皮膚科に依頼）と口腔内の金属修復物の成分分析を行い，アレルギーが存在すれば，その金属修復物を除去し，アレルギーを含まない金属での修復や，ハイブリッド高分子材料やポーセレン，ジルコニアなどの非金属材料での修復を行っている。平成18年から20年までに掌蹠膿疱症，接触性皮膚炎，扁平苔癬など26例の患者を担当した。

その他，著明な骨吸収や種々の粘膜疾患を伴う総義歯難症例にも対応している（長岡）。



図：FRC クラスプの臨床応用例